



ホテルロビーは復興工事が続く富岡駅周辺の憩いの場になっている

富岡ホテル株式会社

福島県富岡町

「フクシマ最前線」の地で 町の活性化と情報発信に貢献

8人の仲間と異業種のホテル経営に挑戦

富岡ホテル株式会社を経営するのは、以前町内で衣料品店、雑貨店、居酒屋などを営んでいた8人。「2012年、避難先の福島県大玉村に仮設店舗を設けた時、3人の仲間と『いつか富岡で何かしたい』と語り合ったのがきっかけ。その後、仲間を募りながら検討を重ね、顧客・商

圏が喪失した町内で需要が見込まれるホテル業への挑戦を決めました」と、代表取締役の渡辺吏氏は当時を振り返る。

開業に際しては、資金の4分の3を補助する「グループ補助金」の利用を模索するも、複数の自営業者が鞍替えする前例はなく、既存復興制度の大きな壁に直面する。2015年1月、福島第一原子力発電所の事故に係る賠償説明



■ 企業情報

社名 富岡ホテル株式会社
業種 旅館業(ホテル経営)
代表取締役 渡辺吏氏
所在地 福島県双葉郡富岡町大字仏浜字釜田122-6
TEL.0240-22-1180 FAX.0240-22-1182
HP: <https://tomiokahotel.jp>

異業種の町民8人が新法人を設立し、2017年10月、JR富岡駅前に開業したビジネスホテル。重量鉄骨造の4階建て。客室はシングル66室、ツイン3室のほか、レストランやバーラウンジも完備。復興の中核機能を担い、「フクシマ最前線」として町の活性化と情報発信を目指す。



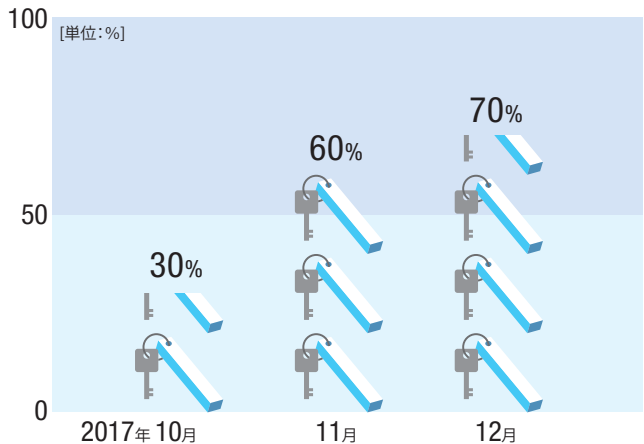
会で事業への意欲と既存制度の課題を訴えたところ、程なく復興庁担当者からの聞き取りがあり、同年4月には新分野需要開拓を見据えた新たな取り組みも補助金の対象となった。以降、商工会議所、県、復興庁の協力を得て、1年半にわたって交渉、摺り合わせを重ね、申請すれば認可される段階まで漕ぎ付けたが、ここで最大のピンチが訪れる。「土壇場で賠償金との兼ね合いから補助金が3分の2に減額されることになりました。挫折しかけたましたが、若いメンバーの強い決意に背中を押され、前へ進むことを決意しました」。

将来設計は“思い”をつなぐ若い世代に

計画認可後は2年連続で復興庁の「専門家派遣集中支援事業」も活用し、派遣されたコンサルタントの下でホテル業に必要な知識やノウハウ等を学び、ホテル研修を受けながら準備を進めた。

ホテル建設用地は区画整理で富岡町が保有地としていた場所。渡辺氏の割り当て分100坪と、同氏が新たに町から購入した200坪を合わせ、町の新たな拠点となるべく、駅前の一角を確保した。

■ 富岡ホテルの稼働率



ホテル稼働率は11月が6割弱、12月も同等以上の数字をクリア。復興事業や視察関連の利用が大半だが、将来的には観光利用も見据えている。「マスコミも積極的に報道していただきましたが、『復興のため、富岡のため』という部分だけ強調されがちで、正直、戸惑いもあります。自分自身が生きていくためのビジネスという前提なんです」と、渡辺氏。また、同氏の長男が東京から戻って一緒に働き出したり、県内から新卒学生の就職応募があるなど、思いは確実に若い世代へつながっている。

「我々の世代が町に人が戻らないことを何とかしようと思っている以上に、若い人の方が真剣に将来のことを考えています。ホテルの将来像も彼らが中心になって描いてほしい」と、渡辺氏は若い世代に大きな期待を寄せる。



JR常磐線富岡駅のすぐ目の前。69室を備える

今だから話せる
成功の舞台裏

被災地外からの進出事例

海外への挑戦事例

事業承継の成功事例

革新的スタートアップ事例